

広報伊達 153

発行日 令和8年3月14日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 五十嵐 修

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》



学びをいかして次年度へ

伊達地区小学校長会副会長

佐藤 みゆき

(伊達市立保原小学校長)

今年度の伊達地区小中学校長協議会12月研修会は、保原町のU-プレイス伊達を会場に研修を行いました。株式会社プレイスメイキングふくしま伊達代表取締役の渡邊浩二様よりご講話いただき、マネージャーの長沢様には施設を詳しくご案内いただきました。また、研修前には、施設のレストランを活用した昼食会を設定し、食を囲んでの和やかな時間をもつこともできました。講話をお聞きし、地域発展へのあたたかい思いと自ら動き出す強い力で、新たな地域の発信基地づくりに全力で取り組まれていることがよくわかりました。身近な地域であっても、まだまだ知らないことがたくさんあることを実感するとともに、社会をつくるのは人であることを肌で感じる機会となりました。こうした他業種でご活躍されている方から学ぶ研修会は、大変ありがたく刺激になるとともに、「またがんばろう」と次への活力にもなりました。

他業種の方から刺激を受けるという点では、少し前に個人的にお聞きしたある方のお話を思い出します。その方は、海外企業で数千人の開発チームを統括し、複数の大手企業の社長や役員を歴任してきたという、まさにグローバルに活躍されている女性です。管理職経験に基づいたリーダーの役割についてのお話は、多くの示唆に富んでおり、大変参考になりました。仕事に対する信念、チームづくり、明確な段取り力が確実な成果に結びつくことも学びました。「やり手」のイメージから

パワーみなぎる力強い感じの方なのかと勝手に想像していましたが、実際は、明るく柔らかな物腰が素敵な方でした。そして、これまで大切にしてきたのは、社員との対話だと教えてくださいました。500人のチームを統括するときには、役職にかかわらず500人全員と対面で話をする場を設けてきたこと、話を聴くことで社員の思いや悩みが見えてくること、それが経営の基盤になることなどをお聞きしました。大規模な組織においても、人、対話、一つ一つの積み重ねを大切にされていることに驚くとともに、人を育て活かす志の強さにたいへん刺激を受けました。

現在、教育課程編成の真只中です。次年度の学校経営に向け、ビジョンをどのように伝えるとよいか、共有するためにはどのような準備が必要なのか、と思い巡らせています。準備の時間は限られていますが、未来の社会をつくる子どもたちを育てるために、多くの方から学びながら、教職員との対話を大切にして、みんなで元気に風を切って教育活動を進めていけるよう力を尽くしたいと思います。

今年度も、伊達地区小中学校校長会での研修や交流を通し多くの学びと励ましをいただきました。心強い限りです。今後も、「伊達はひとつ」の思いをつないで参りましょう。

《 研究部より 》

伊達支会研究活動報告

伊達地区小学校長会研究部長 花 輪 忠 康
(桑折町立醸芳小学校長)

1 令和7年度安達大会を振り返って

今年度は、福島県小学校長会研究協議会安達大会が開催されました。伊達支会は、第9分科会で「キャリア教育」の研究発表を行いました。

伊達支会独自の「アセスメントシート」を活用し、「校長の働きかけ」と「研究の視点」を見える化してPDCAの実践に努めてきました。

また、キャリア教育の実践事例では、経営ビジョンや教育課程にキャリア教育を位置づける実践や、地域の教材や人材を活用した活動の取組などが紹介され、大変魅力的な発表でした。分科会では、伊達支会の取組の成果が高く評価され、2年間の研究を終えました。発表してくださった青柳校長先生を始め、第9分科会の校長先生方には大変お世話になりました。

2 令和8・9・10年度の研究に向けて

令和8年度から10年度までの3年間は、第IV期研究となります。そのため、県研究部では、3年間活用する「研究の手引き」を作成中です。

令和9年度は、全国連合小学校長会研究協議会郡山大会が開催されます。伊達支会は、第2分科会「組織・運営」の研究発表を務めます。経営ビジョンの実現に向けて、活力ある組織づくりのための具体的な方策を究明いたします。

次年度の研究分担は、以下のとおりです。

<発表分科会>

【第2分科会「組織・運営」】
研究課題：学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営
視点 2：組織を活性化させるための具体的な方策の推進
推進：伊達小 堰本小 栗野小 保原小 上保原小 小国小 醸芳小 国見小

<選択分科会>

【第9分科会「学校安全」】
研究課題：命を守る安全教育・防災教育の推進
視点 1：自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進
推進：伊達東小 梁川小 大田小 伊達崎小 柱沢小 掛田小 陸合小 半田醸芳小

全連小の研究協議会は、東北連小の10の分科会から3つ増えて、13分科会となります。分科会の増加に伴い、分科会ごとの研究課題も研究の視点も一部変更となります。また、郡山大会の「副主題設定の理由」においても、文言の規定について全連小の事務局と詰めの協議をしているところです。そのため、現在、各分科会の趣旨文も「案」の段階に留まっています。

3 伊達支会研究の進捗状況

そうした中でも伊達支会の研究は、既に0年次研究が進行しています。現在、第2・第9分科会とも福岡大会の趣旨文を参考に研究の方向を定めています。また、「アセスメントシート」の形式を見直して、より使いやすいシートに改善を図っています。第2分科会では、実態把握の質問項目を作成し、アンケート調査を行ったところです。今後は、両分科会ともに「アセスメントシート」を活用して研究の方向性を可視化するとともに、実践事例の蓄積に努めていきたいと考えています。

本研究を通して、伊達支会が一体となって研究に取り組むことの意義を改めて実感しています。今後も、各校の実践を持ち寄り、互いに学び合いながら、伊達地区の教育の質の向上と、校長としての専門性の深化を目指して、継続的な研究活動を進めていきたいと考えています。

《生徒指導部より》

生徒指導部調査から見える今後の方向性

伊達地区小学校長会生徒指導部長 丹 野 潔
(桑折町立半田醸芳小学校長)

○ はじめに

令和7年度、生徒指導部で行った『『東日本大震災・原子力災害』に係る生徒指導上の諸問題』に関する3つの調査の結果及び考察はすでに公開されているが、改めて考えてみたい。

1 【調査A】子どもたちのこころのケアに向けた校長としての取組

震災発生から15年が経過するが、県内には、今だ1,520人の震災関連の区域外就学児童がおり、前年よりも241人減っている。地区でも7人減の19人と減少している。また、校長として、区域外就学児童へ配慮しつつも、全ての児童に対して、SCやSSWなどを活用しながら、全職員で児童理解と心のケアに努めることがより求められる。

SCの活用した学校の割合や活用回数は、調査開始以来増加し続けている。相談内容を見ると、「発達障がい」「不登校」が前年に続いて多い。3番目に、今年度から項目に入った「不安傾向」が多い。また、次に多い「虐待」が前年比3.4倍も増加している。SSWの活用では、「不登校」に次いで「虐待」が多く、SSWが虐待対応の重要な選択肢の一つになっている。さらに、保護者の相談が年々増加している。活用にあたっての問題点は、「勤務日数・勤務時間の不足」「共通理解のための時間と場の確保」で、前年度と同傾向であり変化が見られないことから、改善が進んでいない。SSWは、「タイムリーな活用」「情報交換の時間と場所の設定」が問題点として多く挙げられており、円滑に活用できることが求められる。

2 【調査B】「不登校」「いじめ」「虐待」「暴力行為」の未然防止と早期解消に向けた校長としての取組

不登校児童数は、県全体では前年比1.1倍増であった。地区でも、前年比9名の増(1.4倍)であり、特に高学年になるに従って大きく増加している。

いじめの認知件数は、地区においては99件と大幅減となり、重大事態は、2件(前年比+1)

であった。今後もいじめの認知を積極的に進めるとともに、重大事態に発展する前に対策を講じる必要がある。

虐待及び虐待の疑いのあった学校数は、県・地区共に減少している。ただし、SCやSSWの活用が増えていることから、学校でできる防止対策には限界があり、関係機関との連携が不可欠である。

暴力行為の件数は、県全体で1,012件(前年比-97)と減少している。一方、地区では64件(前年比+8)と増加している。特に、児童間暴力が44件(前年比+21)と昨年に続いて大幅に増加している。暴力行為という重大な問題を、学校だけで抱え込むことなく、関係機関や専門家、家庭と連携を図りながら対応する体制づくりを進めていく必要がある。

3 【調査C】ネット・SNS利用の実態と校長としての取組

SNS・ネットを利用している児童のうち、地区の70%(前年比+6)が県全体と同じ割合で自分用の機器を持っている。フィルタリング機能が「付いている」が28%(前年比-5)と減少している。平日5時間以上利用している児童が、4.7%(前年比1.8)と長時間利用が増加している。また、利用上のトラブルでは、「ネットで知り合った人とメッセージやメールのやりとりをしたことがある」「ネットにのめり込んで勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがある」と回答した児童が多い。特に、6年生になるとトラブルが急激に増加している。今後も家庭との連携を図り、情報モラル教育等の取組や計画的・系統的な指導の充実が重要である。

○ おわりに

今後、さらなる研修や意見交換等をもとに、各校および各児童の状況や課題に応じて策を講じ、課題解決が図られることを望む。

お忙しい中、各調査にご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

《特色ある教育活動》

限界突破を目指して

桑折町立睦合小学校長 阿部 裕好

◇はじめに

本校児童（むつみっ子）は、『やればできる！ やったらできた！ やるときはやる！』というむつみっ子精神の下、学校生活を送っています。

◇学力向上の土台、基盤づくり

町教委の指導の下、朝の時間を活用して、週に3日15分間ずつ『集中反復学習』に取り組んでいます。（※町内の4つの小学校で実施）

『集中反復学習』がスタートすると、仁王立ちしたむつみっ子が、校舎内に大迫力の暗唱の声を響き渡らせます。

『集中反復学習』は、学年の発達段階に応じて、文学作品の抜粋や古文、早口言葉の暗唱から始まり、百マス計算（足し算と割り算）、漢字の書き取りへと続きます。暗唱の声、計算と書き取りの際の鉛筆の音とそのスピードは圧巻です。

昨年の秋、陰山英男氏のご指導をいただき、同氏の『X』でも本校の様子が紹介されました。

この『集中反復学習』は、本校の学力向上の強固な土台や基盤づくりにつながっていると考えています。

◇おわりに

全校生32名。仲がよくおもしろいのある集団づくりと団結心を、さらに高めるべく、いつでも、どこでも、すぐに集合し、素早く行動できるように、『むつみっ子32人隊形（4パターン）』の練習に磨きをかけているところです。

むつみっ子は、学習面でも運動面でも『限界突破』を目指し、前に進んでいます。

健全で責任ある市民の育成をめざして

伊達市立伊達東小学校長 渡邊 かおり

本校は教科等横断的な学びとICT教育を特色とし、児童も教職員も一緒に取り組んでいる。

【教科等横断的な学び】

「東っ子ふるさと学習プロジェクトマトリクス」を立て、生活科・総合的な学習の時間を中心に各学年で取り組む。5月の地域探検からヒントを得て学級や個人で立てた課題を解決するため、教科をまたいだ探究学習を行い、成果を学習発表会で発信する。計画の実施だけでなく、教師が教科間のつながりをもった発問や指示を意図的に行うことで、児童からも「これは国語でやった勉強が使える」「教科横断だ」といった発言も飛び出す。

【ICT教育】

4月、タブレット開きの授業を全学年で実施し、使い方と約束の徹底を図った。ルールに従い自主的な学習手段として活用させることにより、上学年になると思

考ツールを用いた考えの整理や委員会等のプレゼンテーションに活用する。今年度は、全校生に守ってほしい生活のきまりを高学年が動画にて紹介した。教職員も、ICTミニ研修会を職員室で適宜行っている。

今後も、様々な課題を自分事として捉え、広い視野をもって正しく判断し、デジタル技術を用いて積極的に社会参加できる、健全で責任ある市民となるスキルやマインドセットをめざしていく。



▲児童が作成した説明動画

編集後記

第153号をお届けします。2月4日に開幕したミラノ・コルティナ2026オリンピックでは、日本人選手のメダルラッシュに日本中が沸いています。一つ一つのメダルの陰にはドラマがあり心打たれるものがあります。また、種目を超えて互いにリスペクトし、励まし合う選手たちの姿が心に残ると同時に、互いの活躍を支え合う「チームの力」を感じました。あらためて伊達地区校長会も「伊達是一つ」の合言葉のもと、伊達の教育の充実に向けて力を携えがんばっていきましょう。最後にご多用の中、玉稿を賜りました地区小学校長会の諸校長先生方に心より御礼申し上げます。